

悠紀齋田詠進歌碑

大正4年11月10日、大正天皇即位の大典が行われ、続いて、14日即位後初めての新嘗祭である大嘗祭が行われた。京都仙洞御所の庭内に祭場を2箇所、東（左）に悠紀殿、西（右）に主基殿を設け、それぞれ新穀を神前に供する神事である。京都を中心として、東日本には悠紀齋田、西日本には主基齋田が勅定される。大正天皇大嘗祭では悠紀齋田に愛知県碧海郡六ツ美村中島の早川定之助所有地（現在は岡崎市）が、又、主基齋田には香川県綾歌郡綾川町（旧山田町）が勅定された。奉納された新穀は供饌の儀に用いられ、その儀式の中で稻舂歌や風俗歌が奏せられた。その後、参列者をもてなす大饗会がもたれ、風俗舞歌が舞いに合わせて奏でられた。これらの風俗歌は、宮内省御用係である歌人の子爵黒田清綱が、県下の主だった景勝地を採り上げ、10首を詠進した。その中で稻舂歌は六ツ美村を表現したものである。

稻舂歌（いなつきうた、神饌調理中に奏する歌）：六ツ美村
「八束穂の 垂穂の稲を 刈り積みて 舂（つ）くや村人 むつみ合いつつ」

詠進歌10首の中で歌碑が存在しなかったのは六ツ美村だけであった。悠紀齋田100周年を記念して詠進歌（稻舂歌）歌碑が2015年6月23日に悠紀の里に設置された。

・詠進歌歌碑（表）

詠進歌歌碑表面は稻舂歌がくずし字で刻まれている。

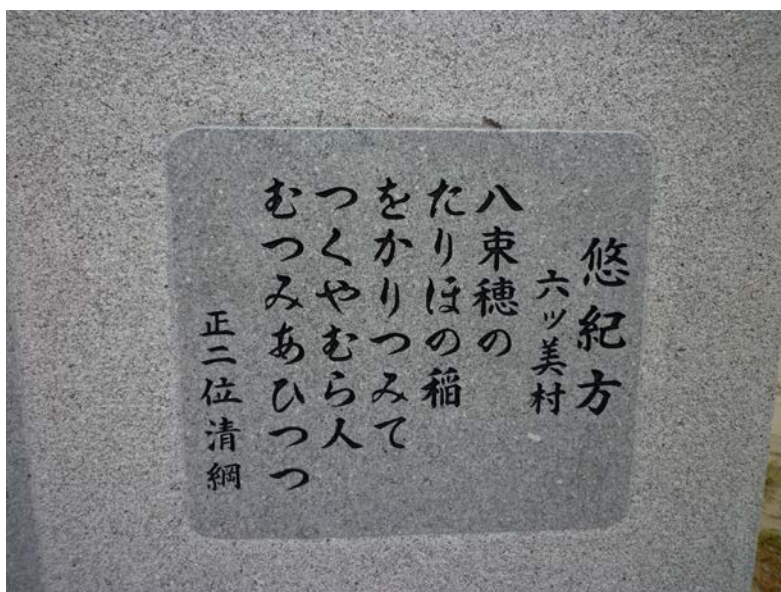


齋田地の記念碑表 大嘗祭悠紀地方 稻舂歌 20150731

・詠進歌歌碑（裏）

詠進歌歌碑裏面は稻春歌が現代口語で刻まれている。

「八束穂のたりほ（垂穂）の稲をかりつみてつ（春）くやむら（村）人むつみあ（合）いつつ」



【詠進歌】

詠進（えいしん）歌とは歌会始の儀に際して詠進され（差し上げ）た短歌。

【稻春歌】

稻春歌（いねつきうた）とは大嘗祭に神前に供える稲をつくるときにうたった歌。

【風俗歌】

風俗歌（ふうぞくうた、ふぞくうた）とは古代の地方民謡。特に平安時代以降、貴族社会に取り入れられて遊宴歌謡としたもの。東国のものが多い。

【黒田清綱（1830～1917）】

黒田清綱（くろだ きよつな）は、鹿児島県出身の子爵。東京府大参事、元老院議員、枢密院顧問、宮内庁御用掛などの要職を歴任した。和歌は格調高い歌風で知られた人で、詠進歌にもその特徴がよく表れている。

本項は以下の資料を引用している。

[大嘗祭 悠紀齋田]

筆者： 野々山 克彦

監修： 野村 弘、都築 末二、山崎 鉦司、越山 義之

発行日：2014（平成26）年4月1日

印刷所：永田印刷所

[大嘗祭 六ッ美悠紀齋田 100周年記念事業記念誌]

編集・発行：六ッ美悠紀齋田 100周年記念事業実行委員会記念誌編集委員

発行日： 2016（平成28）年2月25日

印刷所： 大日印刷株式会社